

八尾市立高安西小学校(大阪府)

1) 活動の目的及び教育上の位置づけ

本校では、創立 50 周年を契機として、「過去から受け継ぎ、未来へつなぐ」という理念のもと、エネルギー環境教育の推進に取り組んだ。これは、持続可能な社会の実現をめざす教育活動と密接に関わるものであり、本校の学校教育目標である「認め合い・学び合い・高め合い」の具現化を図るものである。

教育課程上は、カリキュラム・マネジメントの視点に基づき、エネルギー環境教育を各教科との関連を明確にした年間指導計画を作成した。低学年では「エネルギーを感じる」、中学年では「エネルギーの実態を知る」、高学年では「将来のエネルギーを考える」といった発達段階に応じた系統的な学びを設定した。

また、児童玄関付近に「高西わくわくコーナー」を設置し、全児童が日常的にエネルギーに触れ、主体的に学ぶことができる環境を整備することで、教科横断的な学びの充実を図った。

2) 具体的な学習・活動と教育活動費の利用内容

具体的な取組として、「高西わくわくコーナー」を中心に、体験的・探究的な学習を展開した。月ごとにエネルギーに関する課題を提示し、児童が実験や観察を通して考えたことを表現する活動を行った。また、提出内容の評価・表彰を行うことで、主体的に学ぶ態度の育成を図った。

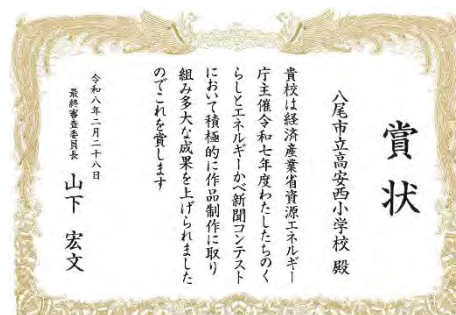
教科においては、エネルギーの視点を取り入れ、以下のような実験・体験活動と関連付けて実施した。

- ・理科（6年）では、酸素・窒素・二酸化炭素などの実験用気体や気体検知管、気体採取器を活用し、燃焼と二酸化炭素の発生、気体の性質とエネルギーとの関係について理解を深めた。また、ガスコンロやガスボンベを用いた燃焼実験を通して、エネルギーの変換や利用について体験的に学習した。

- ・理科（4年）では、アルコール棒温度計を用いた観察により、温度変化とエネルギーの関係について学習した。

- ・家庭科（5年）では、キュウリやさつまいもの栽培活動において、肥料やつるものネットを活用し、緑のカーテンによる気温の変化について理解を深めた。

- ・4・5・6年では、「エネルギーかべ新聞」の作成に取り組み、各教科で学んだ内容を整理・発信する活動を行った。参加は 257 名で、学校賞及び審査員特別賞も受賞した。



本取組を通じて、エネルギーの視点を取り入れることで、各教科の学びがより深まり、児童が実感を伴って理解する姿が見られた。例えば、植物による二酸化炭素吸収や、燃焼による排出の学習を関連付けることで、地球温暖化とエネルギー問題を総合的に捉える力が育成された。特に高学年においては、発電方法や脱炭素社会の在り方について主体的に考える姿が見られた。

さらに、「高西わくわくコーナー」の取組により、「やってみたい」「考えたい」といった学びに向かう態度が育まれ、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力といった資質・能力のバランスの取れた育成につながった。

加えて、教職員にとっても、エネルギー環境教育が教科学習の質を高める有効な手立てであることへの理解が深まり、若手教員の指導力向上という点でも成果が見られた。特に、万博においてエネルギー落語の実演に参加した若手教員は、来場者の反応を踏まえながら伝え方を工夫する経験を通して、児童の興味・関心を引き出す指導の在り方を実感的に学ぶ機会となった。この経験は、日常の授業においても、分かりやすく伝える工夫や主体的な学びを引き出す授業づくりへと還元されている。



4) 2026 年度以降の活動計画や方向性

今後も「高西わくわくコーナー」を継続し、体験を通じた学びを基盤としたエネルギー環境教育を推進していく。2025 年度は「地球温暖化問題」と「省エネルギー」を中心に取り組んだが、2026 年度以降は「エネルギーの安定供給」や「多様なエネルギー源」へと学びを発展させていく予定である。

また、関西電力等の外部機関と連携した出前授業を取り入れることで、より専門的かつ実社会と結び付いた学習の充実を図る。

成果の発信については、学校ホームページや市内教育研究会での報告に加え、記念誌への掲載や学会発表等を通じて広く共有する予定である。これにより、

- ①実践成果の発信
- ②教職員の資質向上
- ③他校とのネットワーク構築

の三点を同時に実現し、持続可能な教育実践として発展させていく。